

OISA NEWS

OITA
INFORMATION
SERVICE INDUSTRY
ASSOCIATION

2025. 3

85

発行：大分県情報サービス産業協会
会長 加藤 健
<https://www.oisa.jp>
編集：広報委員会
事務局：大分市城崎町2-6-31
(大銀コンピュータサービス(株)内)
TEL (097) 537-5918
FAX (097) 534-4545
印刷：株式会社佐伯コミュニケーションズ

大分県情報サービス産業協会



CONTENTS

2025年 新年例会開催・会長挨拶	2
特別講演会	3
2024年度 OISA視察研修旅行	4
第19回OISA親睦ゴルフ大会	
第31回OISA研修の実施	5
第36回OISA技術交流会開催	6
第33回サウンズコンテスト	7
社会貢献活動参加	8
第30回OISAポウリング大会開催	



新着情報更新！
協会Webサイトも
ぜひご覧ください

湯けむり (別府市)

2025年

大分県情報サービス産業協会

新年例会開催

2025年の新年例会が、1月22日(水)に大分市のソレイユにて開催されました。

加藤健会長の新年の挨拶に引き続き、大分市長 足立信也様、九州経済産業局地域経済部情報政策課デジタル経済室 室長 三小田昌弘様、大分県商工観光労働部 審議官 岩尾誠二様からのご挨拶を頂戴し、特別講演へと移りました。本年は、You&Plusの米澤 有加様に「アンガーマネジメントとの出会いと学び」という演題でご講演をいただきました。



加藤 健 会長

会長挨拶

皆様、新年明けましておめでとうございます。さて、昨年のは能登半島地震や飛行機事故があり、痛ましい年明けとなりました。今なお厳しい環境で生活されている被災地の方々に、一日も早い復興をお祈りします。一方で、ロシアによるウクライナ侵攻は未だ解決の目処が立たず、被害が拡大しています。さらに中東でも紛争が繰り返されており、世界の多くの人々が平和を望む中、逆行する現状は極めて残念です。そんな中、アメリカではトランプ政権が発足し、これが世界的にどんな影響を与えていくのか、非常に注目されるところであります。その状況の中で、私たちは日本国内、大分県各地域の発展をこれから目指していかなければならないと考えております。国内ではご存知の通り、急速に人口減少が進んでいます。どの業界においても人手不足が深刻になり、そしてまた地球温暖化、地球沸騰化と言われているぐらい、環境問題も非常に悪化をしており、いろんな産業に大きな影響を与えております。

こうした目の前の喫緊の課題に対して、どの様これから取り組んでいくのか、私たちが社会的な課題を解決していかなければ我々自身も存続が危うくなる、ということで社会課題の解決に向けて、我々、特にデジタルを担うIT産業が果たすべき役割というのは、日増しに高まっていると考えております。

まさにこの大きな役割を期待されるのがデジタルの力であり、DXを推進しなければならないということです。政府ではデジタル庁が発足して自治体の医療システムの標準化やマイナンバーカードの活用、そして新しい地方経済生活環境の創生とさまざまな政策を出されています。

経済産業省DXレポートでも2025年の崖がついに今年ということで大きな過渡期を迎えようとしていると思います。

OISAには大分県内の非常に優れた企業が結集し、人材育成をするための学校もあり、各委員会活動も非常に充実し、真剣に取り組んでいただいております。すでに社会課題の解決につながるような、さまざまな事業も展開されておりますし、ともに皆さんが力を合わせて共創する、ともに創造する、というスタンスでこの課題に向かって挑戦をして行きたいというふうに考えており、そのためにこういったOISAといったような各団体の中で、それぞれがつながりを持って臨める環境があるということは、非常に価値あることと思っております。さらにこの関係を生かすために今まで以上に皆様方と状況共有の場を増やし一緒に取り組む形を考えていきたいと思っております。

結びになりますが、日頃より情報サービス産業の発展とこの協会の活動にご支援ご協力を賜っております会員各社の皆様、そして関係機関の関係団体の皆様方には、厚く御礼を申し上げます。今年は巳年であります。蛇は変化する環境に柔軟に対応する力を象徴していると言われております。

蛇のような柔軟性を持って、皆さんと共にしなやかにいろんな課題を解決していきたいと考えております。2025年が皆様方にとりまして、輝かしい実りある豊かな一年になりますことを祈念申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。今年もどうぞよろしくお願いたします。



大分市長 足立信也様



九州経済産業局地域経済部情報政策課
デジタル経済室 室長 三小田昌弘様



大分県商工観光労働部 審議官 岩尾誠二様

特別講演会

演題 アンガーマネジメントとの出会いと学び

日時：2025年1月22日(水) 16:00～17:30

場所：ソレイユ 7階 アイリスの間

講師：^{よねざわ ゆうか}米澤 有加 氏

プロフィール

大分市出身。2021年「You&Plus」を設立。地元メディアで20年にわたりポーターやパーソナリティとして活躍。また、アンガーマネジメントやレジリエンスの講座と研修を通してあらゆる方の人生のクオリティを高めるセミナーを開催しマルチなご活躍をされておられます。



● アンガーマネジメントとの出会い

夢を持って放送業界に飛び込んだのですが「仕事というのは手を抜くべきじゃない」などの思いからストレスが溜まり、自分がだんだん嫌いになった時期もあり、10年程前友達に誘われて入門講座に参加しました。

その時の私は“アンガーマネジメント”という言葉を全く知らず「何？怒りの感情をどうにかするもの？」という状態で、講座は「安いし、帰りにお茶でも・・・」という軽い気持ちで受講し、これが素晴らしい出会いに繋がりました。

● アンガーマネジメントとは

軽犯罪を犯した人のための矯正プログラムとして誕生しました。理論に基づく技術を習得し、練習することで上手になるものです。

“Angry”は“怒り”ですが、日本アンガーマネジメント協会では、「後悔しないこと」と意味づけており、“あんな怒り方をしなければよかった”という後悔と“きちんと怒っておけばよかった。ちゃんと伝えておけばよかった”という後悔。この2つの“後悔をなくしましょう”と伝えています。怒る必要があることと無いことを線引きして、自分で決めたことにだけ上手に怒っていく、これがアンガーマネジメントなのです。

● アンガーマネジメント練習

自分のために行うものであり、自分の怒りの感情の

コントロール方法です。練習して上手になると、人が“なぜ怒っているか”が何となくわかり、誰かの怒りに晒された時、それを直に受けず、自分を守ることができます。これは、クレーム対応にも役立ちます。

「自分の怒りの感情のタイプ」を知り、無意識のうちに生じる「～べき」「～はず」「普通」「当たり前」の癖を書きかえ、怒りにつながる気持ちや行動が変わるのです。

● レジリエンスとペップトークの紹介

レジリエンスは、負の感情に傾きがちな気持ちをポジティブに持っていきましょうというもの。心が折れてもしなやかに戻ってくる力「心の耐性」のことを言います。

そして、ポジティブシンキングになったその心を言葉に表現しましょうというのが、私が実践している「ペップトーク」です。これは、励ますためにこういう順番でこういう言葉を使うと良いという励まし方のスキルです。“ペップ”というのは、元気・活気・活力という意味があります。

● 最後に実践したい魔法のワード

「アンガーマネジメント」「レジリエンス」「ペップトーク」で何か1つ、扉を開いてみてください。必ず皆さんの人生が変わると思います。そして、この3つに共通する最強の言葉があります。これを使っていれば、思考も明るく、ポジティブになり、人との関係性も良くなる言葉、それが『ありがとう』です。“感謝”の気持ちを伝えられると心が開き、その時に上手に叱り、“期待”で閉じると、相手が改めてくれるというメリットがあります。

「ありがとう」を言った方も、言われた方も、幸せホルモンのオキシトシンが分泌されると言われています。

「ありがとう」は、世界共通のペップトークです。「すみません」が口癖になっている方も、今日から「ありがとう」に変えてみましょう。「すみません」と言った後でも「ありがとう」を付け加えてみると、だんだん「ありがとう」の回数が増えてくると思います。

(総務委員会)



2024年度 OISA 視察研修旅行

第1回視察先

北九州市ロボット・DX推進センター

北九州市ロボット・DX推進センターでは、始めに学園都市の概要について、センターの役割や活動について説明を受けました。その後、館内にある施設で様々な役目をもったロボットのしくみについての説明とロボットのデモンストレーションを見学しました。

ゼンリンミュージアム

ゼンリンミュージアムでは、ゼンリンの創業地である別府についての特別展が開催されており、別府市が観光都市へと発展した過程についての説明を、参加者された皆さんは真剣に聞いていました。



日程：2024年9月12日(木) 参加：10社 20名

第2回視察先

佐賀大学 産学交流プラザ

株式会社オプティム 佐賀本店

佐賀大学(産学交流プラザ)では、地域と共に未来に向けて発展し続ける大学を目指すことを目的とした活動内容について説明を受けました。

OPTiMでは、大学との関係や新たなビジネススタイルや事業への取り組み方などの講話をしていただきました。専用ドローンなどの実機も見学してもらいました。

ヤクルト佐賀本店

創業の精神である代田イズム、「予防医学」「健腸長寿」「誰もが手に入られる価格で」をテーマに説明を受けました。世界各地で活躍するヤクルトレディの販売紹介もあり、工場で作られた商品の試飲や工場見学もおこなわれました。



日程：2025年2月20日(木) 参加：11社 20名

(企画委員会)

第19回 OISA 親睦ゴルフ大会



2024年11月16日(土)、大分中央ゴルフクラブにてコロナウイルス感染症が5類に移行して2年ぶりの開催となりました。

前日からの雨で不安定な天気でしたが、当日は雨も降らず、加藤会長をはじめ、遠く東京からもご参加いただきました。

猛暑の影響で一部芝生の成長に影響がありましたが、みんな笑顔の楽しい会となりました。

優勝は、フコク電興株式会社の平田幸夫様でした。

(参加：9社15名)

優勝 平田 幸夫 (フコク電興株式会社)

2位 菅 充彦 (大交ソリューションズ株式会社)

3位 加藤 健 (株式会社オーイーシー)

DC 水島健太郎 (大分交通株式会社) 菅 充彦 (大交ソリューションズ株式会社)

NP 橋本 勇人 (株式会社エイビス) 柴尾 英樹 (株式会社三紀電通)

(企画委員会)

第31回 OISA研修の実施

～ご参加ありがとうございました～

皆さまのご協力により、11月に2件の研修を無事終了いたしましたので、ご報告いたします。

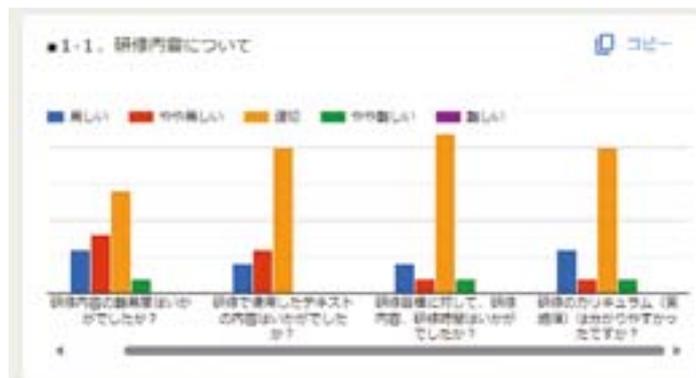
令和6年度の研修で31回目を迎えました。OISA会員の皆さまが関心のある研修内容を確認するため、研修委員会にて事前にアンケートを実施いたしました。その結果以下の2件の研修に決定しました。

生成AI入門ワークショップ(1日コース)

開催日：2024年11月12日(火) 参加16名(7社)

本研修は、株式会社富士通ラーニングメディア様による研修で16名の方のご参加をいただき、盛況の中で開催することができました。研修後の受講者アンケートからは、「内容は非常に分かりやすく、今まで全く触ってこなかった生成AIに触れて学ぶことができ、有り難い内容でした」、「説明が分かりやすく、発表に対するFB的を得ていたと感じた」などというご意見をいただきました。全体的に高評価でした。

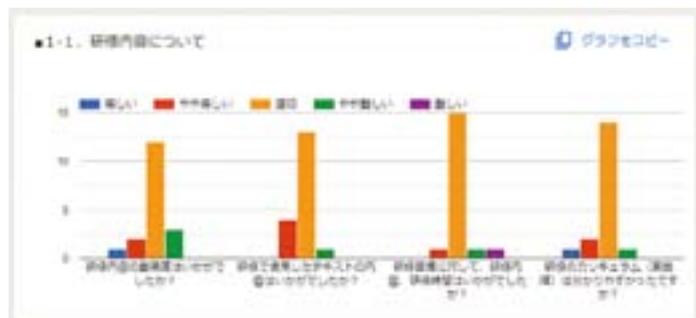
研修委員会では、これまで技術系の研修は費用面で開催が難しいことが課題でしたが、今回開催できました。今後も最新技術をできるだけ多くの会員の方に学んでいただきたいと思います。



ロジカルシンキング研修(1日コース)

開催日：2024年11月19日(火) 参加18名(9社)

本研修は、株式会社インソース様のご協力で、業務改善や問題解決の場面で活用できる「ロジカルシンキング研修」を実施しました。リーダーは、目の前の問題に対して、合理性の高い解決策を導き出すための「論理的思考力」が欠かせません。参加者18名(9社)をできるだけ同じ会社の人と重ならないように4つのグループに分け、異なる会社様同士でグループ討議を行いました。受講者からは「ロジカルシンキングとは少し堅苦しいイメージでしたが、非常に役に立つ手法だなと思いました」、「今後はロジカルシンキングの手法を用いて分かりやすい概要資料が作成できそうです」などと好評でした。



研修委員会は、研修後のアンケート等も参考にし、これからも会員の皆さまのニーズを反映した研修を企画し、充実させていきたいと考えております。

今後のご意見、ご要望をお待ちしています。

(研修委員会)

第36回「OISA 技術交流会」開催

日時：2024年12月4日(水) 13:30~17:30 場所：ハイブリッド開催（現地会場：株式会社オーイーシー新社屋）

OISA 技術交流会は、大分県における情報サービス関連技術の向上と発展を促し、さらなる振興を図ることを目的に毎年開催されています。本年度は株式会社オーイーシー新社屋を現地会場とするハイブリッド開催とし、オンライン参加者を含め120名を超えるご参加をいただきました。

加藤会長による開会あいさつに続き、NTT 版 LLM「tsuzumi」のご紹介、大分大学の DX 基盤モデルのご提案、そして、会員各社の中堅・若手技術者が集った「技術研究会」の成果発表が行われました。

第1部 講演「NTT版LLM tsuzumiを含む生成AIの最新技術動向」

日本電信電話株式会社 執行役員 研究企画部門長 木下真吾氏より、NTT 研究所と研究トピックスのご紹介の後、軽量で日本語に強く柔軟なカスタマイズが可能な国産 LLM「tsuzumi」について、技術的な解説をしていただきました。また、AI エージェントやデジタルヒューマン、マルチモーダル対応といった tsuzumi の拡張・応用の実例が挙げられ、AI コンステレーションによる社会課題解決や集団意思決定などの最新研究事例についても言及されました。さらに、今後の AI との付き合い方について、制御性と信頼性の観点からの洞察と展望が示されました。



木下 真吾 氏

第2部 講演「大学の公共性を活かした知的共創で拓くDX基盤モデルの実現」

大分大学 DX 人材育成プログラム 准教授 大知正直氏より、大学でのリスクリングで組織の DX 人材を育成するご提案がありました。企業等での DX プロジェクトの多くが失敗に終わっている原因を考察し、組織内に「DX エンジン」(自ら課題を設定し、自立能動的に DX 導入を達成できる人)が必要であることを確認した後、大学という公共的な場で実際の DX 課題の設定と解決に取り組むことによって、企業人材の DX エンジン化と、その人的ネットワークの形成を実現するという、DX 推進の基盤モデルが提唱されました。



大知 正直 氏

第3部 技術研究会発表会

・生成 AI 部会 A チーム「RAG および Function-Calling による旅程提案アプリの開発」

ユーザーの好みに基づく旅程を提案するアプリを開発しました。この旅程提案アプリでは、Function-Calling によって宿泊施設の空室状況や交通手段などのリアルタイム情報を取得し、効率的に最適な旅程を提供します。また、RAG（検索拡張手法）を活用して、その地域に特化した情報にもアクセスを可能にし、旅行者に豊かな体験を提供します。成果は期待通りで、多言語対応を含む外国人向けの展開や、他の分野への応用の可能性も模索されています。



A チーム

・生成 AI 部会 B チーム「生成 AI による対話形式の小説生成と応用可能性」

小説生成アプリは、生成系 AI がどのように創作を行うのかを観察するために開発されました。ユーザーはアプリ内でジャンル、読み手の対象、口調などを選択し、生成系 AI がそれに基づいて小説を生成します。課題として著作権の問題が存在しますが、プロンプトの工夫により特定の作家風の作品やテストを作成することも可能です。この技術は、教育、ビジネス、エンターテインメントの分野において新たな可能性を見出すことができました。



B チーム

・量子コンピューティング部会

量子コンピュータープロジェクト「量子コンピューターで観光ルートの最適化を探る」

観光地 15 か所を最短ルートで回る計算を量子コンピューターで実施し、その高速処理能力を実証しました。従来のコンピューターでは数カ月かかる計算が、量子コンピューターでは短時間で完了します。これにより、高速な計算と最適化という量子コンピューターの強みがわかりやすく示されました。技術は現在、まだ黎明期にありますが、将来的には不可欠な存在となる可能性があります。また、今後の人材育成の重要性も強調されました。



量子コンピューティング部会

まとめ

本研究会を通じて、新たな技術を活用し、未来の発展に向けた基盤を構築することを目的に活動しました。生成 AI 部会は、ユーザーのニーズに応じたアプリケーションの開発を通じて、新しい情報提供と創作の場を追求しています。一方、量子コンピューティング部会は、量子コンピューターの高速処理能力を実証し、その応用可能性を探求しています。これらの取り組みは、技術が将来的に重要な役割を果たすことを示しつつ、今後の成長と革新への道を切り拓くことに期待が高まります。

(技術委員会)

第33回

サウンズコンテスト

日時：2025年1月25日(土) 13:30～17:00

会場：OEC CUBE (株式会社オーイーシー South Field 1F,2F)

ON THE COMPUTER

今年で33回目を迎えたサウンズコンテストOn The Computerは、1月25日(土)に大分市のOEC CUBE(株式会社オーイーシー新社屋)で開催されました。

日本文理大学様のご協力によって音響面や運営方法などがクリアされ、無事に開催することができました。

応募曲は昨年から大幅に増え403曲を数え、全国の皆様の興味の高さに安心しました。

その中から厳選なる予選を通過したフリー曲部門17曲、ふるさと応援歌部門6曲の合計23曲で本審査を行いました。

長年司会を務めていただいた大嶋三明様からOBSアナウンサーの村津孝仁様に司会者が交代し、今までとは違う雰囲気で行いいただき、インタビューや授賞式、記念撮影な

どで大変盛り上がりしました。

大分弁丸出し司会の「大嶋節」が当コンテストの特徴でもありました。長い間、当コンテストを支えていただいた大嶋様にこの場をお借りして感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

また、今年もコンテストの模様をYouTubeのリアルタイムでライブ配信いたしました。

ライブ視聴者数は130名を超え、当日会場に来られなかった応募者など視聴者の方々にも大変喜んでいただきました。

審査結果については公式ホームページでも公開させていただき、当日ご来場頂けなかった受賞者には賞品と賞状をそれぞれお送りさせていただきました。

審査結果

賞	氏名	地区	タイトル
グランプリ	Amika Yobuno	神奈川県	CHANGE
フリー曲部門 一般1位	Tokisaki	兵庫県	Dream Flyer
フリー曲部門 一般2位	2tros	東京都	Assassin
フリー曲部門 一般3位	chocotaro	北海道	バーチャル盆踊り
フリー曲部門 学生1位	suzuri	愛知県	FizzyDive
フリー曲部門 学生2位	抹茶バニラ	埼玉県	Snow White
フリー曲部門 学生3位	鼓太郎	京都府	アクション -React-
トリニータ応援歌部門 最優秀賞	田ヶ原 悠	滋賀県	ゆけ！トリニータ！
審査員特別賞	大塚 考浩	千葉県	キングオブ唐揚げ

今年は400曲を超える応募数となり、レベルの高い激戦となりました。その厳しい競争を勝ち抜き、みごとグランプリに輝いたのは、神奈川県の大嶋氏の作品「CHANGE」でした。

Amika Yobuno氏は昨年もグランプリを受賞しており、これで2連覇となりました。

今回の作品について、「舞台(ステージ)照明効果によって、空間や雰囲気が“変化”する様子を表現した作品。シンセ系をメインとしているが、ドライなサウンドばかりではなく、ウェットな部分も混ぜ合わせ、単純な作りでも

聴き飽きないよう、ディテールにこだわっている。ジャンルに縛られることなく、自由な発想で展開されるサウンドをお楽しみいただければ幸いです。」とコメントしており、まさにコンピュータミュージックでしか表現できない素晴らしい楽曲でした。



参加者記念撮影

審査委員

	氏名	審査歴	備考
審査委員長	田村 洋彦	29回目	大分大学名誉教授(音楽科)・東アジア作曲家協会顧問
審査委員	林田 誠	1回目	ピアニスト
審査委員	小畑 貴裕	1回目	作曲家・ピアニスト
審査委員	眞名井 龍一	10回目	大分県情報サービス産業協会 事務局長

トリニータ応援歌

今回も、大分フットボールクラブの後援による「トリニータ応援歌部門」を実施しました。どの曲も、J1復帰を目指す大分トリニータにふさわしい、今年の奮起を期待する気持ちのこもった楽曲が印象的でした。

その中で最優秀賞に輝いたのは、滋賀県の田ヶ原悠さんの作品「ゆけ！トリニータ！」でした。

この曲は、今春開催される今シーズンのホームゲーム開

幕戦前に大分フットボールクラブへ贈呈されました。この曲は、向こう一年間、大分スポーツ公園総合競技場(クラサスドーム)で開催される大分トリニータのホームゲームのBGMとして使われることになっています。

観戦に行かれる方は、試合前に流される音楽にも是非ご注目ください。

最後に、応募曲の編集、映像の編集、会場設営等で大変ご苦勞をおかけした日本文理大学関係者様、また、今回も多くの後援・協賛をいただきました各社様にも紙面をお借りして厚くお礼を申し上げます。ありがとうございました。

(イベント委員会)

社会貢献活動参加

開催日：2025年2月2日(日)

2025年2月2日(日)、第73回別府大分毎日マラソン大会が開催されました。今年も約4,000名のランナーが参加しました。選手たちは序盤から激しい競り合いを繰り広げました。最終的に、ビンセント・キプチュンバ選手が2時間6分01秒の大会新記録で優勝。彼の後には、青山学院大学の若林宏樹選手が2時間6分07秒で続き、初マラソン日本最高記録を樹立しました。視覚障がい者男子の部では、熊谷豊選手が2時間23分51秒で優勝し、自己新記録を達成しました。記録更新や感動的な走りが見られた素晴らしいイベントとなりました。当協会からの給水ボランティア参加も今回で13回目。給水ポイントは戦場のような状態ですが、終わった後の達成感は何ものにも代え難い体験です。今後とも多くの方のご参加を、よろしく願いいたします。

(総務委員会)



第30回 OISAボウリング大会開催

開催日：2024年11月20日(水) 場所：OBSボウル



ゲーム中の様子

去る、11月20日(水)、イベント委員会主催によるボウリング大会がOBSボウルにて、26社36チーム144名の参加により盛大に開催されました。

前回は、4年ぶりの開催となったことで、フルレーンでの開催とはいきませんでした。今年は多数の皆様のご参加のおかげで、フルレーンで開催することができました。

競技は、1チーム4人で構成され、2ゲームのトータルスコアで団体戦と個人戦が競われました。

競技終了後は、場内ミーティングルームに場所を移し表彰式が行われました。表彰式では、上位入賞者の表彰と賞品の授与が行われました。また、上位入賞者の記念撮影があり、和やかな雰囲気大会を終了しました。

今大会は、団体戦ではリコージャパンチームが、前回優勝チームの富士フィルムBI大分チームを抑えて優勝し、個人戦男子では又吉隆紀さんがトータルスコア460点で、個人戦女子では岡純子さんがトータルスコア341点で優勝を勝ち取りました。特に又吉さんは、2位に100点以上の差をつけた圧倒的な優勝でした。



優勝チーム



準優勝チーム

団体戦の部

順位	チーム名	総得点
優勝	リコージャパン	1,301点
準優勝	富士フィルムBI大分	1,238点
3位	大銀コンピュータサービスA	1,139点

個人戦の部

	氏名	総得点
男子ハイゲーム賞	又吉 隆紀(リコージャパン)	460点
女子ハイゲーム賞	岡 純子(東芝デジタルエンジニアリングA)	341点

次回も皆様のご参加をお待ちしています。

(イベント委員会)

OISA NEWSは協会Web
サイトでも読
むことができ
ます。



当協会も後援団体として協力しております第20回IPA「ひろげよう情報モラル・セキュリティコンクール」2024より大分県内の優秀賞が発表されました。QRコードよりアクセスできますのでぜひご確認ください。
(<https://www.ipa.go.jp/security/contest/2024-sakuhin/index.html>)

